

月報だより

人事公募

標準書式：なるべく、以下の項目にしたがってご投稿下さい。結果は必ずお知らせください。

1. 募集人員（ポスト・人数など）、2. (1) 所属部門・所属講座、(2) 勤務地、3. 専門分野、4. 職務内容・担当科目、5. (1) 着任時期、(2) 任期、6. 応募資格、7. 提出書類、8. 応募締切・受付期間、9. (1) 提出先、(2) 問合せ先、10. 応募上の注意、11. その他（待遇など）

国立天文台教官公募

1. 教授1名
2. (1) ハワイ観測所
(2) アメリカ合衆国ハワイ州ヒロ
3. 光学赤外線天文学及び関連分野
すばる望遠鏡のハワイ現地での建設に積極的に参加し、試験観測から共同利用観測の確立までの計画の完成において主要な責任を分担するとともに、すばる望遠鏡を用いた観測的研究を進め優れた若手研究者を育成・指導する教授を求めます。
5. (1) 1998年4月1日以降なるべく早い時期
6. 大学院博士課程修了、またはそれと同等以上の方
7. (1) 略歴書、(2) 研究歴（これまでの研究内容の概要を含む）、(3) 研究論文リスト（査読論文とその他を区別し、共著の主要論文には役割分担を記すこと）および主要論文別刷、(4) 研究計画書、(5) 本人について意見を述べられる人2名の氏名と連絡先、(6) 他薦の場合には推薦書他に、前記事項(1)～(5)の概要がわかる書類
8. 1997年12月25日(木)必着
9. (1) 〒181 東京都三鷹市大沢 2-21-1
国立天文台長 小平桂一 Tel: 0422-34-3650
(2) ハワイ観測所 650 North O'hoku Place, Hilo, HI 96720, Hawaii, USA
所長 海部宣男 1-808-934-5910
国内問い合わせ先 安藤裕康 Tel: 0422-34-3601
10. 封筒の表に「ハワイ観測所教授人事応募書類在中」と朱記し、簡易書留でお送り下さい。選考は国立天文台運営協議員会において行います。なお、外国籍の方の場合、法令に基づいて任期を定める場合があります。

- (2) 東京都三鷹市
3. 天文機器開発及び関連分野
光学赤外線天文学・観測システム研究系は、天文機器開発実験センターと協力して観測装置の開発や天文学に関連する技術および関連ソフトウェアの開発を推進しています。天文機器開発実験センターは設立から5年を経過し、新しい発展の時期を迎えています。先端技術を積極的に取り入れ、国立天文台および全国の研究者からの高度な期待に応えるべくセンターを強化していく責任を担う教授を求めます。
5. (1) 1998年4月1日以降なるべく早い時期
6. 大学院博士課程修了、またはそれと同等以上の方
7. (1) 略歴書、(2) 研究歴（これまでの研究内容の概要を含む）、(3) 研究論文リスト（査読論文とその他を区別し、共著の主要論文には役割分担を記すこと）および主要論文別刷、(4) 研究計画書、(5) 本人について意見を述べられる人2名の氏名と連絡先、(6) 他薦の場合には推薦書他に、前記事項(1)～(5)の概要がわかる書類
8. 1997年12月25日(木)必着
9. (1) 〒181 東京都三鷹市大沢 2-21-1
国立天文台長 小平桂一 Tel: 0422-34-3650
(2) 〒181 東京都三鷹市大沢 2-21-1
光学赤外線天文学・観測システム研究系主幹 安藤裕康 Tel: 0422-34-3601
10. 封筒の表に「光赤系教授人事応募書類在中」と朱記し、簡易書留でお送り下さい。選考は国立天文台運営協議員会において行います。なお、外国籍の方の場合、法令に基づいて任期を定める場合があります。

-
1. 教授1名
 2. (1) 位置天文・天体力学研究系
(2) 東京都三鷹市
 3. 位置天文学分野
国立天文台は光赤外線干渉計を用いた高精度位置天文計測並びに高精度イメージングの基礎実験を進めています。これをも視野に入れ新しい位置天文学の推進にリーダーシップを発揮する研究者を望みます。全国の大学の研究者との共同研究、大学院教育にも積極的な人材を求めます。候補者の現在の研究分野は特に問いません。
 5. (1) 1998年4月1日以降なるべく早い時期
 6. 大学院博士課程修了、またはそれと同等以上の方
 7. (1) 略歴書、(2) 研究歴（これまでの研究内容の概要を含む）、(3) 研究論文リスト（査読論文とその他を区別し、共著の主要論文には役割分担を記すこと）および主要論文別刷、(4) 研究計画書、(5) 本人について意見を述べられる人2名の氏名と連絡先、(6) 他

-
1. 教授1名
 2. (1) 光学赤外線天文学・観測システム研究系

薦の場合には推薦書の他に、前記事項(1)～(5)の概要がわかる書類

- 8. 1997年12月25日(木)必着
- 9. (1) 〒181 東京都三鷹市大沢2-21-1
国立天文台長 小平桂一 Tel: 0422-34-3650
- (2) 〒181 東京都三鷹市大沢2-21-1
位置天文・天体力学研究系 木下 宙
Tel: 0422-34-3615 Fax: 0422-34-3793
又は 企画調整主幹 観山正見
Tel: 0422-34-3738 Fax: 0422-34-3746
- 10. 封筒の表に「位置天文学分野教授応募書類在中」と朱記し、簡易書留でお送り下さい。選考は国立天文台運営協議員会において行います。なお、外国籍の方の場合、法令に基づいて任期を定める場合があります。

.....

- 1. 教授 1名
- 2. (1) 電波天文学研究系
(2) 長野県南佐久郡南牧村野辺山
- 3. 宇宙電波天文学分野
電波天文学研究系では、野辺山宇宙電波観測所の開所から既に15年が経ち、将来計画としてのLMSA(大型ミリ波サブミリ波干渉計)計画を中心とした第二期への発展に向けて大きな転換期にさしかかっています。電波天文学の将来について広いビジョンを持ち、宇宙電波を中心とする日本の電波天文学分野の発展に指導力を発揮して取り組むとともに、共同利用機関としての運営にも積極的に努力する意欲的な研究者を求めます。

- 5. (1) 1998年4月1日以降のなるべく早い時期
- 6. 大学院博士課程修了、またはそれと同等以上の方
- 7. (1) 略歴書、(2) 研究歴(これまでの研究内容の概要を含む)、(3) 研究論文リスト(査読論文とその他を区別し、共著の主要論文には役割分担を記すこと)および主要論文別刷、(4) 研究計画書、(5) 本人について意見を述べられる人2名の氏名と連絡先、(6) 他薦の場合には推薦書の他に、前記事項(1)～(5)の概要がわかる書類

- 8. 1997年12月25日(木)必着
- 9. (1) 〒181 東京都三鷹市大沢2-21-1
国立天文台長 小平桂一
- (2) 〒384-13 長野県南佐久郡南牧村野辺山
電波天文学研究系主幹 石黒正人
Tel: 0267-98-4392 Fax: 0267-98-2884
- 10. 封筒の表に「電波天文学教授人事応募書類」と朱記し、簡易書留でお送り下さい。選考は国立天文台運営協議員会において行います。なお、外国籍の方の場合、法令に基づいて任期を定める場合があります。

.....

- 1. 助教授1名
- 2. (1) 天文学データ解析計算センター
(2) 東京都三鷹市
- 3. データベース天文学分野
立ち上がりつつあるすばる望遠鏡や、野辺山宇宙電波観測所のデータや将来の電波の計画等、大量のデータを生み出す装置の進展を考え、波長横断的な多波長データベース天文学の研究開発の中心となり、センターのシニアスタッフとしてセンターを新しい方向に引っ張っていく助教授を求めます。
- 5. (1) 1998年4月1日以降のなるべく早い時期
- 6. 大学院修士課程修了、またはそれと同等以上の方
- 7. (1) 略歴書、(2) 研究歴(これまでの研究内容の概要を含む)、(3) 研究論文リスト(査読論文とその他を区別し、共著の主要論文には役割分担を記すこと)および主要論文別刷、(4) 研究計画書、(5) 本人について意見を述べられる人2名の氏名と連絡先、(6) 他薦の場合には推薦書の他に、前記事項(1)～(5)の概要がわかる書類

- 8. 1997年12月25日(木)必着
- 9. (1) 〒181 東京都三鷹市大沢2-21-1
国立天文台長 小平桂一 Tel: 0422-34-3650
- (2) 〒181 東京都三鷹市大沢2-21-1
天文学データ解析計算センター長 近田義廣
Tel: 0422-34-3704
- 10. 封筒の表に「計算センター助教授応募書類在中」と朱記し、簡易書留でお送り下さい。選考は国立天文台運営協議員会において行います。なお、外国籍の方の場合、法令に基づいて任期を定める場合があります。

.....

- 1. 助教授1名
- 2. (1) 広報普及室・新天体情報室
(2) 東京都三鷹市
- 3. 広報普及・新天体情報関連分野
国立天文台では、野辺山の電波望遠鏡やハワイのすばる望遠鏡などから得られる最新の天文学成果を、社会に広く公開して国民の共有知的財産にしたいと、積極的に取り組んでいます。この中核となって、天文学の成果の公開や各種の情報提供への対応に積極的に取り組みつつ、研究を推進できる能力を持つ天文学研究者を募集します。
- 5. (1) 1998年4月1日以降のなるべく早い時期
- 6. 大学院修士課程修了、またはそれと同等以上の方
- 7. (1) 略歴書、(2) 研究歴(これまでの研究内容の概要を含む)、(3) 研究論文リスト(査読論文とその他を区別し、共著の主要論文には役割分担を記すこと)および主要論文別刷、(4) 研究計画書、(5) 本人について意見を述べられる人2名の氏名と連絡先、(6) 他

薦の場合には推薦書の他に、前記事項 (1) ~ (5) の概要がわかる書類

8. 1997年12月25日(木)必着
9. (1) 〒181 東京都三鷹市大沢 2-21-1
国立天文台長 小平桂一 Tel : 0422-34-3650
- (2) 〒181 東京都三鷹市大沢 2-21-1
企画調整主幹 観山正見
Tel : 0422-34-3738, Fax : 0422-34-3746
10. 封筒の表に「広報普及助教授応募書類在中」と朱記し、簡易書留でお送り下さい。選考は国立天文台運営協議員会において行います。なお、外国籍の方の場合、法令に基づいて任期を定める場合があります。

-
1. 助手 1名
 2. (1) 光学赤外線天文学・観測システム研究系
(2) 東京都三鷹市 (将来ハワイもありえます)
 3. 光学赤外線天文学及び関連分野
すばる望遠鏡にかかわる観測装置の製作、データ取得システム、データ解析ソフトウェアなどの開発研究に参加するとともに、すばる望遠鏡の試験観測装置・第一期観測装置等を用いた観測的研究を進める若手研究者を求めます。
 5. (1) 決定後なるべく早い時期
 6. 大学院修士課程修了、またはそれと同等以上の方
 7. (1) 略歴書, (2) 研究歴 (これまでの研究内容の概要を含む), (3) 研究論文リスト (査読論文とその他を区別し、共著の主要論文には役割分担を記すこと) および主要論文別刷, (4) 研究計画書, (5) 本人について意見を述べられる人2名の氏名と連絡先, (6) 他薦の場合には推薦書の他に、前記事項 (1) ~ (5) の概要がわかる書類
 8. 1997年12月25日(木)必着
 9. (1) 〒181 東京都三鷹市大沢 2-21-1
国立天文台長 小平桂一 Tel : 0422-34-3650
 - (2) 〒181 東京都三鷹市大沢 2-21-1
光学赤外線天文学・観測システム研究系主幹
安藤裕康 Tel : 0422-34-3601
 10. 封筒の表に「光赤系助手人事応募書類在中」と朱記し、簡易書留でお送り下さい。選考は国立天文台運営協議員会において行います。

-
1. 助手 2名
 2. (1) 電波天文学研究系
(2) A. 東京都三鷹市
B. 長野県南佐久郡南牧村野辺山
 3. A. スペース VLBI および関連分野
B. 宇宙電波天文学分野

電波天文学研究系では、45m 電波望遠鏡、ミリ波干渉計および国内 VLBI 網による観測的研究と共同利用運用を行いつつ、VSOP (スペース VLBI) を成功させ、将来計画としての LMSA (大型ミリ波サブミリ波干渉計) 計画の推進に努力しています。

- A. VSOP を中心とした研究に取り組むとともに、地球回転研究系と協力して VERA (相対 VLBI による高精度天体位置計測) 等の新しい計画にも参加する意欲的な若手研究者 1 名,
- B. 既存の装置のグレードアップを通じて将来の LMSA 計画につながるような新しい研究成果を出せる意欲的な若手研究者 1 名を求めます。
5. (1) 1998年4月1日以降のなるべく早い時期
6. 大学院修士課程修了、またはそれと同等以上の方
7. (1) 略歴書, (2) 研究歴 (これまでの研究内容の概要を含む), (3) 研究論文リスト (査読論文とその他を区別し、共著の主要論文には役割分担を記すこと) および主要論文別刷, (4) 研究計画書 (上記 3. A, B の希望分野を明記し、複数のポストに応募する場合は希望順位をつけ、それぞれについての研究計画書を提出すること), (5) 本人について意見を述べられる人2名の氏名と連絡先, (6) 他薦の場合には推薦書の他に、前記事項 (1) ~ (5) の概要がわかる書類
8. 1997年12月25日(木)必着
9. (1) 〒181 東京都三鷹市大沢 2-21-1
国立天文台長 小平桂一
- (2) 〒384-13 長野県南佐久郡南牧村野辺山
電波天文学研究系主幹 石黒正人
Tel : 0267-98-4392 Fax : 0267-98-2884
10. 封筒の表に「電波天文学助手人事応募書類」と朱記し、簡易書留でお送り下さい。選考は国立天文台運営協議員会において行います。

宇宙科学研究所教官公募

このたび、下記の要領により教官公募を行いますので、広く適任者の推薦、応募を求めます。

1. 助教授 1名
2. (1) 宇宙圏研究系 赤外線天体物理学部門
(2) 神奈川県相模原市由野台 3-1-1
宇宙科学研究所
3. 主としてスペースからの赤外線観測によって星、銀河、宇宙の誕生と進化過程の研究を行う。現在、当該部門では気球、ロケット、人工衛星など飛翔体による赤外線観測ならびに解析研究を行っている。また平成14年度に打上げ予定の赤外線天文衛星 (ASTRO-F) 計画を進めている。これらの研究に意欲を持ち、当面の中心課題になる衛星計画の中核となっただけの方で、大学共同利用機関である本研究所の職務を理解

し、共同利用諸計画の遂行に積極的な役割を果たしていただける方を希望する。尚、関連する分野の研究者として現在、当該部門に奥田治之教授、川田光伸助手、また銀河進化物理学部門には松本敏雄教授が、共通基礎研究系宇宙計測システム部門には村上 浩教授、次世代探査機研究センターには中川貴雄助教授が在籍している。

5. 決定後できるだけ早い着任
7. (1) 略歴, (2) 研究歴, (3) 論文リスト及び主要論文の別刷り, (4) 研究計画書 (自薦の場合), (5) 他薦の場合, 推薦書2通, 自薦の場合, 本人について意見を述べられる人2名の氏名と連絡先
8. 1998年1月9日(金)必着
9. (1) 〒229 神奈川県相模原市由野台3-1-1
宇宙科学研究所 庶務課人事係
電話(代表) 0427-51-3911
(2) 同上研究所内
赤外線天体物理学部門 教授 奥田治之
内線 2601 FAX: 0427-86-7202
10. 封筒の表に「助教応募(推薦)書類在中」と朱で明記して下さい。選考は、宇宙科学研究所運営協議員会において行います。応募者に適格者がいない場合には決定を保留することがあります。

平成10年度国立天文台外国人研究員(COE分)候補者の推薦について

1. 平成10年度外国人研究員(COE分)について、国内公募を行います。
 2. 平成10年4月以降に招へいをしようとする者を対象とします。(招へい期間については、3ヵ月以上1年以内となります。)
 3. 推薦される候補者がある場合は、国立天文台所属の受入れ責任者にご相談の上、所定の申請書を作成し、関連資料(略歴等・論文リスト等)を添えて、ご提出下さい。
- 公募締切:平成9年12月19日(金)必着
提出先及び問い合わせ先:
〒181 東京都三鷹市大沢 2-21-1
国立天文台管理部庶務課共同利用係
TEL: 0422-34-3660
国立天文台長 小平桂一

研究助成

平成10年度宇宙環境利用に関する地上研究公募のご案内

国際宇宙ステーションの軌道上における組立の開始が間近になるなど、宇宙環境利用の本格的な時代を迎えようとしています。宇宙では、微小重力環境など地上では得がたい環境の下で、実験を実施することができます。

本制度は、JEM (Japanese Experiment Module : 国際宇宙ステーションの日本の実験棟)での宇宙環境を利用する研究の準備段階として、幅広い分野の研究者による新たな発想に基づく地上研究機会を提供し、宇宙環境利用を推進することを目的としています。

公募制度の概要

- 大学、国立試験研究機関、民間企業などの研究者の方々を対象に幅広く研究テーマを募集します。
 - 公募対象研究分野 微小重力科学、ライフサイエンス、宇宙医学、宇宙科学、地球科学、宇宙利用技術開発の6分野があります。
 - 研究費
 - ・フェーズI研究
(平成9年度平均応募額 約5百万円/年)
宇宙環境利用の有効性や研究手法、実験手段などについて、調査検討や地上実験を行い、宇宙環境利用を指向した研究テーマを対象とします。
 - ・フェーズII研究
(平成9年度平均応募額 約6千万円/年)
JEM利用テーマ募集への応募を目標とした本格的な宇宙環境利用に向けた準備段階にある研究であり、研究の手法や宇宙実験概念が明確に定義された研究テーマを対象とします。
 - 財団法人日本宇宙フォーラム内に、有識者によって構成される委員会を設置し、応募された研究テーマの選定等を行います。
 - 研究形態
研究形態としては、委託研究、共同研究、招聘研究のうちいずれかの形態をとります。
 - 研究期間 1年~3年
 - 実験施設、試験施設の提供
研究の必要に応じて調整の上、落下塔、航空機の微小重力模擬実験施設等の利用機会を提供いたします。
 - スケジュール
 - ・募集期間:平成9年10月~平成10年1月中旬(予定)
 - ・研究開始:平成10年4月(予定)
- 注記:上記事項の詳細については現在検討中であり、10月以降に詳細な応募要領等を下記ホームページに掲載

する予定です。

●問い合わせ先

財団法人日本宇宙フォーラム (JAPAN SPACE FORUM)

公募研究推進部 担当: 大西, 北條

電話: 03-3459-1653 FAX: 03-5470-8426

URL: <http://www.homepage.co.jp/jsforum>

E-mail: koubo@jsforum.or.jp

研究会・集会案内

京都大学宇宙物理学教室・教室公開のお知らせ

京都大学の学園祭である 11 月祭 (NF) に合わせて、以下の要領で教室公開を行います。

日時: 1997 年 11 月 21 日 (金) ~ 24 日 (月・休日)

午前 10 時 ~ 午後 5 時

内容:

1. 講演会 斎藤 衛氏 22 日 (土) 14:00 ~
2. 観望会 22 日 (土) 18:00 ~
3. 展示 教室紹介・研究内容紹介
4. その他 スライド等

場所:

1. 京都大学本部構内 (予定)

2 ~ 4. 京都大学北部構内宇宙物理学教室

★講演会や観望会の日時・場所等, 詳しいことは決定次第 [tennet](http://www.tennet.org) および, Web ページ <http://www.kusastro.kyoto-u.ac.jp/index-j.html> でお知らせします。

問い合わせ先:

〒606-01 京都府京都市左京区北白川追分町

京都大学理学部宇宙物理学教室 出田 誠

e-mail: ideta@kusastro.kyoto-u.ac.jp

文部省科学研究費重点領域「高エネルギー天体」平成 9 年度シンポジウム

日時: 1997 年 12 月 17 日 (水) ~ 20 日 (土)

場所: 国立婦人会館

〒355-02 埼玉県比企郡嵐山町大字菅谷 728 番地

電話: 0493-62-6711

内容: 1990 年代になって、地上観測による超高エネルギーガンマ線 (100 GeV 程度以上) による天体観測の窓が開き、電波から TeV ガンマ線まで電磁波の 20 桁近い領域にわたる多波長の観測データの比較が可能になりつつある。ガンマ線で明るい天体での超高エネルギー粒子の粒子加速現象などが明らかになりだし

た。これらの超高エネルギー現象を実験的、理論的に探るために、科研費重点領域「高エネルギー天体」の研究が平成 7 年度から発足し、今回はその 3 回目の研究会である。昨年と同様に O バルサー、活動銀河など中性子星やブラックホール近傍の超高エネルギー現象、O 正体不明の高エネルギーガンマ線源、などに加え、研究会の主題として、O 謎の解明の突破口が見え始めたガンマ線バースト、O 超高エネルギーガンマ線が検出され宇宙線の起源の証拠が固まりつつある超新星残骸、などを取り上げる予定である。

定員: 約 80 名

参加費: 無料

申込期限: 宿泊予定の場合は 11 月末ごろまでの連絡が望ましい

連絡先: 〒188 田無市緑町 3-2-1

東京大学宇宙線研究所空気シャワー部

木舟 (研究会内容について)

tkifune@icrr.u-tokyo.ac.jp

渡辺 (参加申し込みなど)

izumi@icrr.u-tokyo.ac.jp

電話: 0424-69-9594 FAX: 0424-62-3096

第 XLIX 回山田コンファレンス

「ブラックホールと高エネルギー天体物理学」

主催: 山田科学振興財団

日時: 1998 年 4 月 7 日 (火) ~ 10 日 (金)

場所: 京大会館 〒606 京都市左京区吉田河原町 15-9

内容: ブラックホールの形成・重力波・時空構造, 膨張宇宙時空の創成および天体構造形成, ならびにガンマ線バースト, MACHO, 銀河活動性, 超高エネルギー宇宙線などの理論と観測について, 招待講演を中心に将来の展望について討論する。

参加費: 15,000 円, 学生 10,000 円

(proceedings 込み, バンケット別)

申込方法: 氏名, 連絡先, 所属, 学生・一般の別, バンケット (15,000 円) の出欠, e-mail address を記し, 下記 www を通じて参加登録をお願い致します (郵送も可)。会議の詳細もそこを参照下さい。原則として招待講演のみといたします。

連絡先:

〒606 京都市左京区北白川追分町

京都大学理学部物理学第二教室

山田コンファレンス事務局 杉山 直

FAX: 075-753-3886

e-mail: bh@tap.scphys.kyoto-u.ac.jp

<http://murasaki.scphys.kyoto-u.ac.jp/~bh/yamaconf.html>

「第3回東洋天文学史国際会議」のお知らせ

日時：1998年10月27日(火)～30日(金)
場所：アクロス福岡4F国際会議場
内容：この会議は「暦博士から窺天鏡までの東洋天文学史」をメインテーマに次のような内容を扱います。

1. 暦編纂史
2. 古星図と古星表
3. 天文観測記録,
4. 渾天儀や望遠鏡などの天文機器,
5. 天文台や天文碑,
6. アジアの国々と日本との天文学の交流

関係する各国(日本, 中国, 韓国, インド, 台湾, オーストラリア, ドイツ, フランス, イギリス, アメリカ, イランなど)の研究者が参加する予定です。講演・参加などを希望される方は, 下記連絡先まで, セカンドサーキュラーを請求してください。

連絡先：〒811-41 福岡県宗像市赤間 729-1

福岡教育大学天文学教室

平井正則 (LOC Chair)

Tel : 0940-35-1375 Fax : 0940-33-7730

E-mail : ICOA@fukuoka-edu.ac.jp

★詳細は, <http://www.fukuoka-edu.ac.jp/meeting/ICOA.html> をご覧下さい。

会務案内

日本天文学会林忠四郎賞受賞候補者および 欧文報告論文賞受賞候補論文推薦のお願い

1997年9月17日
社団法人 日本天文学会

標記の2つの賞について, 受賞候補者(論文)の推薦をお願いします。両賞の由来と内規については, 本誌1996年11月号(会務案内, p.524), およびそこに引用した記事を見てください。

これらの賞を権威あるものに育ていくのに最も大切なことは, どれだけ立派な研究に対して賞が授けられているかということです。関連分野の学識経験者, および天文学会会員諸氏からのご推薦をお願いします。

締切は, 両賞共, 1997年12月19日(金) 下に述べるそれぞれの要領にしたがって記入した推薦書を, 〒181 三鷹市大沢 2-21-1, 国立天文台内, 日本天文学会宛に郵送してください。なお, 封筒には「林忠四郎賞候補推薦書」または「論文賞候補推薦書」と表記してください。

とくに返送等のお申し出がない限り, 推薦書類は選考後に破棄します。授賞式は, 両賞共, 本会年会の通常総会(1998年3月17日)にて行います。

●日本天文学会林忠四郎賞(第2回)推薦要領

この賞は, 林忠四郎博士が1995年11月に第11回京都市賞を授与されたのを記念し, 「後進の天文学研究を奨励するため」として同博士が日本天文学会に寄付された金額を基金にして設定されたものです。第1回(1996年度)は, 「宇宙背景放射ゆらぎの理論」の研究業績に対して, 小玉英雄・佐々木節の両氏(連名)に贈られました。

分野等: 広い意味での天文学(天体物理学, 宇宙物理学, 他の関連テーマも含む)における独創的かつ分野に寄与するところの大きい研究業績に対して授与する。

授賞件数: 原則として各年に1件。

賞状等: 本賞として賞状, 副賞として賞牌(メダル)および賞金(20万円)。

推薦書の形式: 表題は「1997年度林忠四郎賞候補者推薦書」としてください。前年度と同じ推薦をなされる場合も, あらためて推薦書を提出してください。A4サイズの用紙に, 次の順序で横書きにしてください。

- 1) 候補者(被推薦者, 連名授賞可)について: 氏名(ふりがな), 生年または大学卒業年, 現職, 連絡先(電話, faxも)
- 2) 授賞対象とする研究の表題
- 3) 推薦者について: 氏名(ふりがな), 現職, 連絡先(電話, faxも), 被推薦者との関係
- 4) 推薦理由の要旨(300字以内)
- 5) 推薦理由
- 6) 関連する論文のリスト
- 7) 添付資料として, 推薦に関連して最も重要な論文のコピー(複数可)

●日本天文学会欧文報告論文賞(第2回)推薦要領

この賞は, 良い論文が Publications of the Astronomical Society of Japan (PASJ) に投稿・出版されるのを奨励するために設定されたものです。第1回(1996年度)は "Discovery of a Peculiar SU UMa-Type Dwarf Nova ER Ursae Majoris", Taichi KATO and Chatief KUNJAYA, PASJ, vol. 47 (1995), No. 2, pp. 163-168 の論文に対し, 加藤太一, カチーフ・クンジャヤの両氏(連名)に贈られました。なお, 本賞の選考委員会は, 林忠四郎賞選考委員会が兼ねることになっています。

対象論文等: 原則として過去3年以内に Publications of the Astronomical Society of Japan に出版された論文のうち, 独創的で天文学分野に寄与の大きい, 特に優れた論文の著者(共著の場合はすべての共著者)に授与する。

授賞件数等: 原則として1年に2件以内。賞状を授与する。

推薦書の形式: 表題は「1997年度欧文報告論文賞候補推薦書」としてください。A4サイズの用紙に, 次の順序で横書きにしてください。

- 1) 候補論文について：論文題目，著者名，所属，出版された巻，ページ，発行年
- 2) 論文著者について：氏名（ふりがな），連絡先（電話，fax も）
- 3～7) 林忠四郎賞推薦の場合と同じ

第 17 期日本学術会議天文学研究連絡委員会 および天文学国際協同観測専門委員会・委員 候補者名簿

第 16 期天文学研連委員長 尾崎洋二

第 17 期天文研連委員候補者として，第 16 期研連での申し合わせに則り，日本天文学会選挙管理委員会による投票の結果に基づき，以下の 21 名の方々を日本学術会議に推薦いたしましたので，お知らせ致します。

天文研連委員候補者（アイウエオ順）

家 正則，池内 了，井上 一，戎崎俊一，岡村定矩，海部宣男，加藤万里子，小山勝二，桜井 隆，笹尾哲夫，佐藤勝彦，佐藤修二，高原文郎，谷口義明，中村卓史，野本憲一，長谷川哲夫，福島登志夫，牧島一夫，松田卓也，観山正見

上記委員の内，学術会議会員として池内了氏，IAU 役員として副会長の海部宣男氏，分科会委員長の福島登志夫氏の 3 氏は選挙によらずに，自動的に委員となっていた方です。

また，天文学国際協同観測専門委員会の委員については，天文研連の中に作られたワーキンググループによる人選により，以下の 16 名の方々を日本学術会議に推薦いたしました。

専門委員会委員候補者（アイウエオ順）

家 正則，池内 了，井上 一，井上 允，江尻全機，岡村定矩，小川原嘉明，釜江常好，唐牛 宏，川辺良平，黒河宏企，桜井 隆，中嶋 暹，福井康雄，湯元清文，由田建勝

IAU 新会員 75 名の登録を承認

IAU 国内母体である日本学術会議天文学研究連絡委員会の推薦による 74 名及びコミッション委員長からの推薦 1 名の計 75 名について，IAU 新会員とすることを 8 月 25 日の Nominating Committee で提案し，同委員会の了承を経て，8 月 27 日の IAU 総会において正式に承認されましたのでご報告します。

これにより，日本の IAU 会員は総数 445 名となりました。

以下に IAU 新会員となられた方々のお名前を列記します。
粟木久光，石田 学，伊藤 胖，上野宗孝，大西浩次，大橋永芳，大橋由紀夫，大原謙一，小川英夫，尾関博之，加藤賢一，金光 理，川口建太郎，北井礼三郎，熊谷紫麻見，

郡司修一，小池千代枝，小出真路，小林秀行，酒井彰子，坂尾太郎，阪本成一，佐々木実，佐々木伸，柴崎徳明，柴田 大，柴田克典，嶋作一大，菅井 肇，杉之原立史，砂田和良，関本裕太郎，高遠徳尚，高橋広治，高橋忠幸，田代 信，千川道幸，千葉証司，辻本拓司，土屋俊夫，堤 貴弘，坪田幸正，鶴 剛，土居 守，中島 紀，長田哲也，中村昭子，中本泰史，中山薫二，西 亮一，能丸潤一，橋本 修，廿日出勇，平野尚美，穂積俊輔，政井邦昭，増田 智，松尾 宏，水谷興平，水本好彦，三好 真，三好 蕃，村上 泉，矢野 創，山内 誠，山内茂雄，山岡 均，山田章一，山田良透，山本 智，山本嘉昭，吉岡一男，吉田道利，和田桂一，渡辺憲昭（以上 75 名，50 音順）

天文研連幹事（家 正則）

日本天文学会早川幸男基金受給者募集要項

日本天文学会 早川幸男基金（若手海外学術研究援助基金）内規*に基づき，海外学術研究に対して援助を希望する者を募集（1998 年度第 1 期）致します。

1. 援助金総額 年間 200 万円（1998 年度）
2. 援助件数 年間数件程度
3. 募集対象期間 1998 年 1 月 1 日～3 月 31 日の間に日本を出発するもの。また前回の応募時に間に合わず，すでに渡航してしまった場合はその事情説明をつけて応募して下さい。
4. 応募必要書類（少なくともコピーの分は A 4 紙に統一すること）

原本 1 部，コピー 5 部。書類（特にコピーの分）に不備があると審査段階で不利益を被る恐れがありますのでご注意ください。

- (1) 応募用カバーシート（第 90 巻 5 号 249 頁の応募用紙を A 4 に拡大コピーして使用する）。なお，渡航目的と応募者の研究内容との関連は詳しく書くこと。
 - (2) 論文リストを含む研究業種
 - (3) 観測については，観測割当通知および観測提案の写しか，それに準ずるもの
 - (4) 国際共同研究については，渡航先の招聘状および研究計画の概要
 - (5) 研究集会参加については，当該研究会開催の主旨を説明する資料，プログラム，および応募者の寄与（口頭発表等）を証明するもの
 - (6) 大学院生の場合，研究指導者の意見書
 - (7) 航空運賃の見積書
 - (8) 関連研究論文の写し（一編）
5. 応募締切：1997 年 12 月 10 日必着
6. 決定時期：1997 年 12 月下旬
7. 応募書類送付先：

〒181 東京都三鷹市大沢 2-21-1 国立天文台内

日本天文学会 早川基金募集係

* 早川基金内規 (天文月報第 90 巻第 5 号参照) による
援助対象資格は「日本天文学会会員で、原則として 35 歳以下の天文学研究者であって、この基金以外の海外渡航費 (滞在費を除く) の援助を受けない者。」です。
1998 年はこの後、3 月 10 日締め切りで 1998 年 4 ~ 6 月出発分の募集を行う予定です。応募希望者は書類等の準備をしてください。

日本天文学会評議員候補者選挙に関する公示

評議員選挙管理委員会は、1998 年の春季総会に推薦される改選評議員 (任期 1998 年 ~ 2001 年) 候補者の選挙について、定款第 25 条及び評議員選挙施行細則 (以下細則という) に基づき、下記の通り公示する。

記

1. 選挙権利及び被選挙権を有するものは、この公示の時点における正会員である。ただし非改選評議員 (任期 1996 年 ~ 1999 年) は非選挙権を有しない (細則 3 条による)。
2. 上記有権者には、有権者名簿及び投票用紙を別に発送する (細則 4 条による)。

3. 投票は、10 名以内の無記名連記とする (細則 5 条による)。
4. 投票期間は、1997 年 11 月 13 日 (木) から 1997 年 12 月 15 日 (月) (必着) までとする。
5. 選出された候補者の名簿は、1998 年 2 月 20 日発行の天文月報 (1998 年 3 月号) にこれを発表する (細則 7 条による)。
6. 投票の細則に関しては、上記 2 の有権者名簿及び投票用紙の発送に際して、これを通知する。

以上

1997 年 10 月 20 日

評議員選挙管理委員会委員長 野口邦男

お詫びと訂正

先日発行されました天文月報第 90 巻 10 号において寄贈図書リストに誤りがありました。お詫び致しますとともに訂正させていただきます。

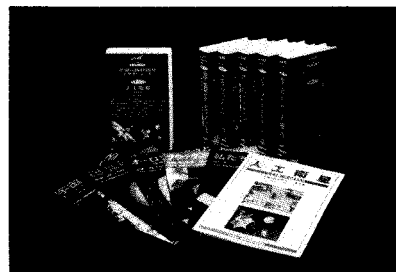
・宇宙のゴミ問題

誤 「B 5 版, 260 p, 2472 円, 大修館書店」
 正 「四 6 判, 132 p, 1500 円, 裳華房」

(お知らせ)

宇宙科学啓発ビデオ第 6 弾「人工衛星」発売中

文部省宇宙科学研究所では、宇宙科学啓発ビデオ“宇宙へ飛び出せシリーズ”の第 6 巻「人工衛星」を制作、財団法人宇宙科学振興会より発売された。このビデオでは人工衛星の仕事や仕組み、また、人工衛星の設計から打ち上げまでを、臨場感あふれる映像と CG を使って分かりやすく説明している。地球の回りには、さまざまな使命をもった人工衛星が回っている。これらの人工衛星はどのような機能が備えられているのか。宇宙へ打ち出されるまでにどのような労力が費やされているのか。そして、将来どのような計画があるのかも紹介している。学校での理科や地学の教材としての利用をはじめ、できるだけ多くの方々には是非視聴してもらいたいビデオである。教師や保護者を対象とした解説書付き。



- タイトル = ビデオ宇宙へ飛び出せシリーズ第 6 巻「人工衛星」
- VHS / カラー / 25 分
- 企画 = 文部省宇宙科学研究所
- 制作 = 株式会社イメージサイエンス
- 発売 = 財団法人宇宙科学振興会
- 定価 = 3,400 円 (税込) / 送料 500 円
- お問い合わせ・お申し込み先 = 財団法人宇宙科学振興会 電話 0427-51-1126

編集委員 末松芳法 (編集長), 上野宗孝, 大橋正健, 小谷太郎, 辻本拓司, 野口邦男, 平野尚美, 宮坂正大
 平成 9 年 10 月 20 日 発行人 〒181 東京都三鷹市大沢 2-21-1 国立天文台内 社団法人 日本天文学会
 印刷発行 印刷所 〒162 東京都新宿区早稲田鶴巻町 565-12 啓文堂 松本印刷
 定価 700 円 (本体 667 円) 発行所 〒181 東京都三鷹市大沢 2-21-1 国立天文台内 社団法人 日本天文学会
 電話 (0422) 31-1359 (事務室) 5488 (月報・欧文編集) 5487 (FAX 専用) 振替口座 00160-1-13595
 日本天文学会のホームページ <http://www.tenmon.or.jp> 月報編集 e-mail: gpjimu@tenmon.or.jp